

蘇州だより

蘇州日本人学校
教諭 櫻井 紀邦
令和4年5月30日

No.12

閉まるのも突然、開くのも突然

学校再開の見通しが見えない中、このままずっとオンライン授業が続くことを想定し、学習指導計画の見直しや評価のあり方や方法などについて本格的に検討を始めていた5月中旬…。前触れもなく、突然開校となりました。

前年度の2月から子どもたちは登校できず、学校に足を踏み入れることができなかったため、前年度の子どもの荷物や学用品等もすべて学校に残っている状態でした。分散出勤が可能であった時期にある程度の新年度の準備はしていたとはいえ、数日後に開学となるとしなくてはならないことが山積みでした。教職員は連日夜遅くまで残り、休日返上で何とか登校初日を迎えたような状況でした。

登校初日を迎えるまで大変だったのは、刻々と変化する通達への対応です。児童登校時点からさかのぼって48時間以内のPCR検査の陰性証明が必要になりました。それも、児童本人だけではなく、同居家族全員分です。ここで詳述はしませんが、陰性証明の提出方法やアプリの設定、その他様々なところで数々の問題点があり、対応に追われました。初日、とにもかくにも児童・生徒全員が登校できて、本当にほっとしました。

登校できても、PCR検査を全児童・生徒・教職員対象に毎日校内で行わなくてはなりません。開学以来、毎日校内で300人以上のPCR検査を行っています。検査をする人員の加配などあるはずもなく、PCR検査の研修を養護教諭・事務職員・管理職が急遽受け、何とか校内で回しています。助かるのは、検査を嫌がる子が一人もいないことです。子どもたちも検査慣れしています。PCR検査は完全に日常の一部です。校内の検査の他に、3日に1回、社区（地区）で検査を受けています。私がPCR検査を受けた回数は、通算3桁は間違いないのではないかと思います。何の自慢にもなりません。

さて、私が担任している1年生。初日は保護者入校なしの入学式を行い、翌日から何といきなり6時間授業！例年でしたら入学式より10日間程度は昼前に下校するのですが、急遽の開学でスクールバスの契約変更ができず、下校のスクールバスが出る16時まで帰れません。どうなることかと思いましたが、いろいろ工夫し、何とか16時まで1年生は楽しく元気に過ごしています。ただ、上海のロックダウンの影響もあり、まだ着任できていない教員も多く、専科の授業が組めていない関係で、担任は1日中1年生に付きっきりです。子どもたちが落ち着いて学校生活を送れるようにはなったので、何とかトイレには行けますが、やはり目は離せないで、なかなかハードな毎日です。今年度入学の1年生は、コロナ禍に幼児期が当たっており、また隔離や一時帰国等の駐在員特有の事情もあり、日本語環境での集団生活をほぼ経験できていない児童も少なくありません。そうした事情を踏まえながら、教育活動を考え、日々子どもたちに接しています。

今年度で3年目となりますが、一度も「例年通り」の年度初めとなったことがありません。与えられた条件の中で、何ができるのか。優先することは何か。何が大切なのか。何が子どもたちのためになるのか。根本に立ち返って考えざるを得ないことが多く、そういう意味では貴重な経験をさせていただいているなと思っています。



今年度の入学式（小中合同）